

総務委員会 テーマ「ふるさと納税について」

参加者のご意見

Q1：委員会 長久手市は「ふるさと納税制度において返礼品競争には乗らない」という姿勢だが、平成30年、長久手市から流出する税金は1億4,500万円となった。これは、平成30年度の予算ベースで見ると、Nーバス事業費1億2,000万円を超える額になる。ふるさと納税をどう思われたか。

A1：参加者 「金持ち減税」であり、「なぜふるさと納税をしたのか。」の理由を聞きたい。どう止めることができるのか。長久手市の返礼品（劇画本、あぐりん村の新鮮野菜ボックス）に魅力が無い。

Q2：委員会 長久手市は今後どのような体制にすべきか。

A2：参加者 長久手市の特色ある施策へふるさと納税を呼びかける必要がある。他県にアピールできる街づくりやモリコロパークの活用を考えていってはどうか。

委員会としての対応

ふるさと納税の制度は、アイデアや活用によって地域経済の活性化につながることは確かである。寄付しやすい環境が進み、ふるさと納税市場全体の拡大は今後も増えていくと思われ、本市のふるさと納税について、体制を整え積極的な展開を提言する。

- ふるさと納税担当の職員配置をすすめること。
- 特色があり、わかりやすい施策をたて、共感を呼ぶこと。
- 魅力ある返礼品の発掘をすること。